

「究極のエコマンション」 相根昭典氏を講師に迎えて

建築に関わる環境問題には、耐用年数の延長、資源の再利用、ライフスタイルの変革、人の健康と安全といった理念と技術にまたがるいろいろな課題があります。しかし「正確な」情報と実例が少ないことから、まだまだ手探りの状態の方が多いのではないのでしょうか。

今回の寺子屋では、コーポラティブ手法を用いながら、これらの課題を少しでも解決すべく、「究極のエコマンション」を実現させた、建築家の相根昭典氏を講師にお招きします。当日の議論をよりいっそう深めるため、講演に先立ち、「エコヴィレッジ日野」のについての寄稿をいただきました。当日は詳細な事例紹介とともに、「真」の健康住宅・環境共生建築とは何かを考える積極的な情報交換を行いたいと思っております。

【相根昭典（さがねあきのり）氏略歴】

（株）アンビエックス代表取締役。一級建築士。一九五四年生まれ。

住宅での化学物質汚染に危機感を持ち、東西医学・民間療法等幅広く研究し、健康住宅を提唱。健康住宅の設計・監修業務に加え、無公害・低公害建材の研究・開発、コンサルティングを行う。

「住環境と健康を考える会（住環研）」、「きもちの会」等の研究会の設立を働きかけ、循環型社会と一次産業の復権、健康に関わる様々な活動を展開、現在「循環型集落」の具現化に最も重点を置いて活動している。著書・「健康な住まいを手に入れる本」（共著・コモンズ発行）

コーポラ方式のエコロジーマンション

エコヴィレッジ日野について

相根昭典

コンセプト

暮らしの化学物質汚染や、外圧による政府の対応と健康住宅マーケットの混迷した現状を踏まえると、とて一戸の住宅だけでは、エコ建築に向けた解決の糸口をたぐり寄せるのは難しいようです。個のエリアだけでなく、集合した生活圏から地域を見据え、文明の構造を見直す場が必要になってきました。

気持ちよく、心地よく、健やかに暮らしていきたい。そんな素朴で質素な庶民のささやかな夢を包んでくれる、ふつうの「住まい」がほしい。いまやそんな当たり前で平凡な願いさえも叶えることができません。華美で豪華などとは思っていないのに、大手プレハブメーカーやマンションメーカーは過剰ともいえる設備に、ホルムアルデヒドを低減しただけで安全と謳い、ていねいに抗菌するという矛盾を誇らしげに宣伝しているものもあります。こんな「危険な健康住宅」にはとても恐ろしくて近づけません。産廃処理場の容量はあと三年余り。二～三十年で分別・再生利用など考えるよりも早くミンチ解体される新建材住宅。資源循環型法案などまるであてになりません。真に環境や健康にやさしいことはなおざりにされ、何かと目を引こうと利益優先の企業姿勢が見え隠れしています。

そんな社会構造を考え直し、ただあたりまえに生きられる「住まい」と「暮らし」を探り、化学物質まみれのエゴとモノ優先の社会からの脱却と、環境と調和して健康でいられるむらづくりを目指します。

計画概要

1 内部や外部周辺への空気汚染対策として可能な限り、有害化学物質建材を使用しません。最新の技術により土壁や木材・古材、リサイクル建材で施工。

2 建築廃材の焼却によるダイオキシンは社会問題となっておりますが、このプロジェクトでは可能

な限り、徹底して脱塩ビを図りました。

3 屋上や空地に菜園（畑）を作り、有機農法で栽培できます。

4 生ゴミを微生物で処理したり、屋上菜園や空地の植栽の堆肥にします。

5 風力とソーラー発電で、雨水を屋上菜園（畑）や空地の植栽に灌水したり、外部照明の電源にします。

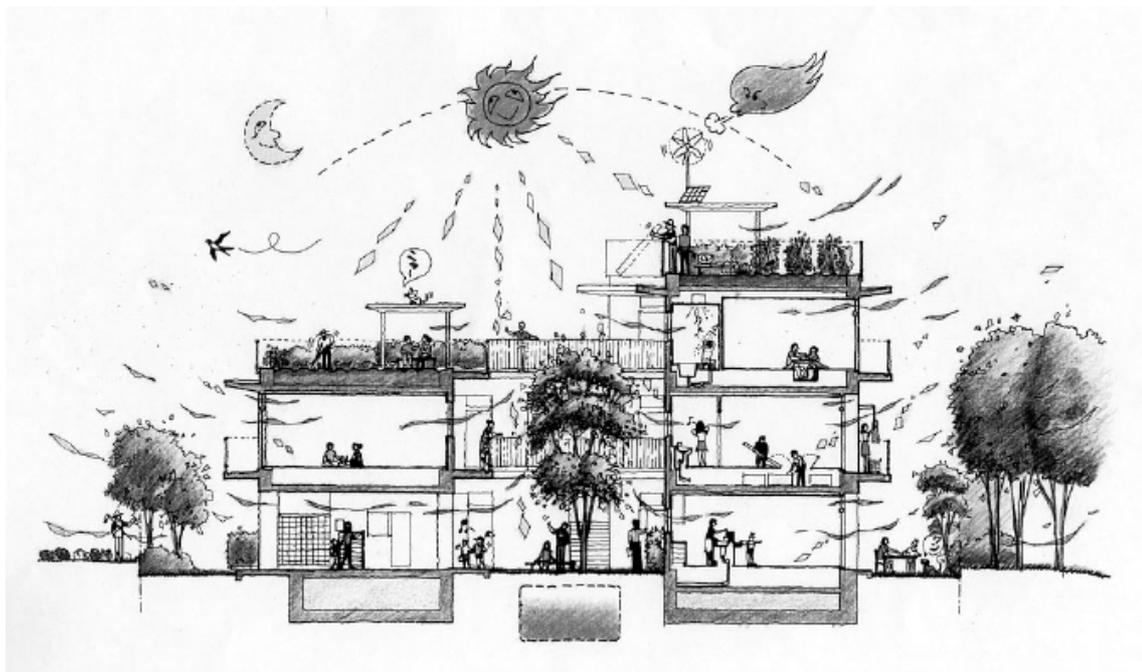
6 逆梁工法

7 外断熱工法で耐久性・居住性を高める。

8 建設中に土壁づくりやピオトープなどワークショップ形式で集う場づくりをし、入居前に親睦を深めるとともに自主メンテナンスを可能にします。

エコヴィレッジ日野 概要

- ・ 建築地 東京都日野市
- ・ コーポラティブ方式（入居十四世帯予定）
- ・ 二〇〇〇年十一月完成予定



（ J I A NEWS 2000/10月号より抜粋転載）

当日は、スライドを使って、エコビレッジ日野の概要を詳しく説明頂くと共に、活発な質疑応答がありました。建材メーカーなどに対して、安全性を情報公開してもらってからしか、採用しない相根先生の徹底した姿勢や化学への知識に一同感服しました。